

- 問1 マレーシアなどの東南アジアに位置する熱帯の地域では、伝統的に床を地面から高く上げた「高床式」の住居が多く見られます。このような建築様式がとられている理由として、現地の気候的特徴を踏まえた説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2024年 宮崎県公立入試 類似）
- 年間を通じて高温多湿であるため、地面からの湿気や熱を防ぎ、家の中の風通しを良くして涼しく過ごすため
 - 砂漠地帯特有の激しい昼夜の気温差に対応するため、日干しれんがで壁を厚くし、熱を遮断するため
 - 夏に永久凍土の表面が溶けた際、建物の熱が地面に伝わって家が傾くのを防ぐため
 - 雨季と乾季の明瞭な変化に合わせて、家畜とともに移動しやすいように組み立てや解体を容易にするため
- 問2 一九七〇年と二〇二〇年の世界の平均寿命を比較した統計によると、サハラ以南のアフリカは、一九七〇年時点の四十五歳から、二〇二〇年には六十二歳へと大きく改善しました。この事実と、他の地域との比較に基づいた説明として正しいものはどれですか。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- サハラ以南のアフリカのみが特例的に寿命を延ばしており、世界全体としては平均寿命に大きな変化は見られない。
 - サハラ以南のアフリカの数値が改善したのは、一九七〇年時点でこの地域の平均寿命が世界で最も高かったためである。
 - サハラ以南のアフリカは大幅な改善を見せた結果、二〇二〇年時点では南アジアやラテンアメリカの平均寿命を追い抜いている。
 - サハラ以南のアフリカは数値が大幅に改善したが、世界全体の中で比較すると、依然として最も平均寿命が低い地域である。
- 問3 世界の諸地域の気候について、南半球の温帯に位置する都市の雨温図に見られる、気温の折れ線グラフの大きな特徴として正しいものはどれですか。（2022年 山形県公立入試 類似）
- 赤道に近いため、1年を通じて気温の変化がほとんどなく、折れ線がほぼ水平に近い形を示す。
 - 1年を通じて気温が氷点下を下回ることが多く、月ごとの気温変化が極めて激しい形を示す。
 - 1年の中で7月ごろに気温が最も低くなり、1月や12月の気温が高くなるV字型の変化を示す。
 - 1年の中で7月ごろに気温が最も高くなり、1月や12月の気温が低くなる山型の変化を示す。
- 問4 世界の茶の生産と輸出に関する統計において、2000年から2020年の間に中国の生産量は世界シェアの約19%から約45%へと急増しました。しかし、輸出量のシェアを見ると、中国の割合は生産量のシェアほど高くはありません。この理由として、中国の茶業におけるどのような背景が考えられますか。（2026年 京都府公立入試 類似）
- 輸向けに品質管理基準が厳格化され、出荷が制限されたため
 - 自国内での茶の消費量が非常に多いため
 - 生産した茶の大部分を工業用の原料として保管しているため
 - 近隣諸国からの安価な茶の輸入が増え、自国製品の競争力が低下したため
- 問5 南アフリカのケープタウンやニュージーランドのウェリントンに見られる、温帯の気候帯における人々の生活や環境の特色として、最も適切な説明を選びなさい。（2018年 千葉県公立入試 類似）
- 四季の変化がはっきりしているため、季節に合わせた農作業が行われ、多くの人が居住している。
 - 一年を通して降水量が非常に少なく、乾燥に強い作物やオアシスでの農業が中心となる。
 - 一年中気温が高く、スコールと呼ばれる激しい雨が降るため、高床式の住居が見られる。
 - 冬の寒さが極めて厳しいため、タイガと呼ばれる広大な針葉樹林を利用した林業が盛んである。
- 問6 タイなどの東南アジアの諸国では、年間を通して気温が高く降水量も多いという気候条件を活かし、広大な平原などで米の栽培が盛んに行われています。同じ耕地において、このように一年のうちに同じ作物を二回栽培して収穫する農業形態を何といいますか。（2023年 山形県公立入試 類似）
- 輪作
 - 二期作
 - 二毛作
 - 転換畑
- 問7 中緯度帯の上空を一年中ほぼ一定の方向に吹く西寄りの風である「偏西風」に関する記述として、正しいものはどれですか。（2019年 高知県公立入試 類似）
- 赤道付近から常に東向きに吹いており、帆船が航海する際の大きな助けとなった風である。
 - 夏と冬で吹く方向が反対になり、日本を含む東アジアの気候に季節ごとの変化をもたらす。
 - 日本の上空でも吹いており、低気圧や高気圧を西から東へと移動させる要因となっている。
 - ユーラシア大陸の乾燥した空気を大西洋に向かって運び、ヨーロッパの沿岸部に砂漠を形成させる。
- 問8 北半球の高緯度地域に位置し、最寒月の平均気温がマイナス40度近くまで下がる一方で、夏季には15度程度まで上昇するという、年間の気温差が非常に大きい気候区分を何といいますか。（2024年 大分県公立入試 類似）
- 西岸海洋性気候
 - 地中海性気候
 - 亜寒帯（冷帯）
 - ツンドラ気候
- 問9 北半球と南半球の緯度30度から60度付近の中緯度帯において、上空を一年中西から東に向かって吹いている恒常風を何というか。（2018年 静岡県公立入試 類似）
- 偏西風
 - 貿易風
 - 季節風
 - 極東風
- 問10 ユーラシア大陸北部のロシア周辺のような、冬の寒さが極めて厳しい高緯度地域で見られる伝統的な衣服の特徴として、最も適切なものはどれですか。（2019年 富山県公立入試 類似）
- 高温多湿な気候に合わせ、通気性に優れた薄手の綿織物の衣服
 - アンデス山脈などの高地で飼育される、アルパカの毛を用いた衣服
 - 強い日差しや砂から身を守るために、全身を覆うような丈の長い衣服
 - 動物の毛皮などを活用して作られた、保温性の高い厚手の防寒着
- 問11 日本列島付近の天気は、一般的に西から東へと移り変わる傾向があります。この理由として、日本が位置する中緯度帯の上空において、雲や気圧配置を西から東へ運ぶ役割を果たしている仕組みを何というか。（2026年 静岡県公立入試 類似）
- 赤道付近から吹く貿易風による影響
 - 大陸から吹き出すシベリア高気圧の風
 - モンスーン（季節風）の周期的な変化
 - 中緯度帯の上空を一年中吹く偏西風
- 問12 シベリアを中心とするユーラシア大陸北部の高緯度地帯で見られる気候や植生の特徴についての説明として適切なものはどれですか。（2025年 岩手県公立入試 類似）
- 短い夏の間にある程度気温が上がり、タイガと呼ばれる針葉樹林が広がっている。
 - 年間を通じて温暖であり、ぶどうやオリーブの栽培が盛んに行われている。
 - 年中高温多雨であり、多様な樹種からなる広大な熱帯雨林が形成されている。
 - 一年中樹木が生育できず、夏の間だけ地表の氷が溶けて草やこけ類が生育する。
- 問13 北アフリカから西アジアにかけて広く信仰されており、唯一神アッラーを信じ、聖典である『コーラン』を重んじる宗教を選びなさい。（2020年 福島県公立入試 類似）
- 仏教
 - イスラム教
 - ヒンドゥー教
 - キリスト教

答え合わせ・解説

問1	答え 1 年間を通じて高温多湿であるため、地面からの湿気や熱を防ぎ、家の中の風通しを良くして涼しく過ごすため	熱帯雨林気候に属する地域は、赤道に近く太陽の光を強く受けるため、一年中気温が高く降水量が多い「高温多湿」な環境にあります。このような環境下で快適に生活するためには、湿気を逃がし、体感温度を下げるための「風通し」の確保が不可欠です。床を高くすることで地面からの熱気や湿気が直接伝わるのを避け、床下からも風が通る構造にしています。なお、永久凍土への対策は寒帯、干干しれんがは乾燥帯、移動式の住居は牧畜が行われる草原地帯などで見られる工夫です。
問2	答え 4 サハラ以南のアフリカは数値が大幅に改善したが、世界全体の中で比較すると、依然として最も平均寿命が低い地域である。	サハラ以南のアフリカでは、乳幼児死亡率の低下や感染症対策の普及により、平均寿命は四十五歳から六十二歳へと大きく向上しました。しかし、ヨーロッパや東アジア、北米などの他の地域も同様、あるいはそれ以上の水準で寿命を延ばしており、依然としてサハラ以南のアフリカは世界の中で最も平均寿命が低い地域に分類されます。統計データを読み取る際は、数値の「改善」と「相対的な順位」の両方に注目することが重要です。
問3	答え 3 1年の中で7月ごろに気温が最も低くなり、1月や12月の気温が高くなるV字型の変化を示す。	地球の公転と地軸の傾きの影響により、南半球は北半球と季節が逆転します。そのため、北半球の温帯では7月ごろに気温が高くなる「山型」のグラフになりますが、南半球の温帯では7月ごろに冬を迎えて気温が下がり、中央が凹んだ「V字型」のグラフになるのが特徴です。
問4	答え 2 自国内での茶の消費量が非常に多いため	中国は世界最大の茶の生産国であり、20年間でそのシェアを大幅に拡大させました。しかし、中国国内には伝統的な茶文化が深く根付いており、膨大な人口による国内消費が極めて多いため、生産された茶の多くが国内で消費されます。その結果、ケニアやスリランカといった輸出依存度の高い国々と比較して、生産量に対する輸出量の割合が低くなるという特徴があります。
問5	答え 1 四季の変化がはっきりしているため、季節に合わせた農作業が行われ、多くの人々が居住している。	温帯は、熱帯のように極端な高温が続くわけではなく、また冷帯（亜寒帯）のように極寒の冬が長く続くわけでもありません。適度な気温の変化と降水量により、農業生産が安定し、世界的に見ても人口が集中しやすいのが大きな特徴です。選択肢にあるスコールは熱帯、オアシスは乾燥帯、タイガは冷帯（亜寒帯）の特色を説明したものです。
問6	答え 2 二期作	一年を通して気温が高い熱帯などの地域では、作物の成長が早いので、同じ土地で同じ作物を一年に二回栽培することが可能です。これを二期作と呼びます。一方で、同じ土地で一年のうちに「異なる」種類の作物（米と麦など）を栽培することは二毛作と呼ばれ、区別して覚える必要があります。
問7	答え 3 日本の上空でも吹いており、低気圧や高気圧を西から東へと移動させる要因となっている。	偏西風は地球の中緯度帯（日本やヨーロッパなど）の上空を一年中西から東へと吹いている強い風です。この風の影響で、日本付近の天気は基本的に「西から東」へと変わっていきます。選択肢にある「夏と冬で吹く方向が反対になる風」は季節風（モンスーン）であり、「赤道付近から吹く風」は貿易風を指しているため、偏西風の性質とは異なります。
問8	答え 3 亜寒帯（冷帯）	北半球の高緯度内陸部などで見られるこの気候は、冬の寒さが極めて厳しい反面、夏は短いながらも気温が上がるため、年間の気温差（年較差）が非常に大きくなるのが特徴です。樹木が育たない寒帯（ツンドラ気候など）とは異なり、夏に気温が上がるため森林が形成されます。
問9	答え 1 偏西風	中緯度帯の上空では、地球の自転などの影響により、西から東へと絶えず吹く強い風が存在します。この風は、日本などのように中緯度に位置する地域の気象や気候の形成に極めて大きな影響を与えており、温帯の天気が西から東へと移り変わる主な原因となっています。
問10	答え 4 動物の毛皮などを活用して作られた、保温性の高い厚手の防寒着	ユーラシア大陸北部などの高緯度寒冷地では、斜めに差し込む太陽の光の影響で地表が温まりにくく、冬の寒さが非常に厳しくなります。このような環境で生活するためには、体温を逃がさない工夫が不可欠であり、伝統的に入手しやすい動物の毛皮を利用した防寒着や、厚手のコート、帽子などを身に付ける生活様式が発達しました。アルパカの毛を用いるのは南米の高山地域、丈の長い衣服は乾燥帯、薄手の綿織物は熱帯や温帯で見られる特徴です。
問11	答え 4 中緯度帯の上空を一年中吹く偏西風	日本は北半球の中緯度帯に位置しており、その上空には偏西風が常に西から東へと吹いています。この風が低気圧や高気圧、雲の塊などを西から東へと押し流すため、日本の天気は数日おきに西から順に変化していくという特徴を持ちます。
問12	答え 1 短い夏の間にある程度気温が上がり、タイガと呼ばれる針葉樹林が広がっている。	ユーラシア大陸北部の高緯度地帯（シベリア付近）は冷帯（亜寒帯）の気候を示します。冬の寒さはとても厳しいですが、夏には一定程度気温が上がるため、タイガと呼ばれる針葉樹林が発達します。
問13	答え 2 イスラム教	北アフリカや西アジアの乾燥地帯では、7世紀にアラビア半島で誕生したイスラム教が広く普及しています。信者は唯一神であるアッラーを崇拝し、日常生活の規範ともなる聖典『コーラン』に従って生活しています。